

今年の夏はペンションに泊まろう



家族経営が主流で、洋風の小規模な宿泊施設のペンション。玉原高原には12棟あり、安価な宿泊料金や個性的なオーナーとの触れ合いが魅力です。新型コロナで遠くに遊びに行けない今年は、市内のペンションでゆっくりしてみたいはいかがですか。

問合せ 観光交流課観光推進係 ☎内線5032

玉原のブナ林の中にひっそりと佇む白と茶色を基調としたペンション。出窓からは手入れされた白やピンクの花々が顔をのぞかせ、食堂に備えられたバーカウンターではお客様の趣向に合わせて酒を振る舞います。

ペンションを構えて30年。桐生市出身の弘一さんは、元は全国転勤を伴うサラリーマン。好きな山歩きやスキーを楽しむ山の中で仕事を、自分たちでやってみようという念発起しました。

こだわりワインと湿原 楽しんで



ペンション バン・デ・ルージュ

— 杉山弘一さん・紀子さん —

フランス語で赤ワインを意味する屋号の「バン・デ・ルージュ」。その名のとおり、ワインがおいしいペンションとして人気があり、県内外からリピーターが多いといえます。ボルドーやブルゴーニュなど厳選して取り寄せ、ワインに合うチーズも数種類そろえます。妻の紀子さんは料理の他にも、ペンション周辺で集めたブドウのつるなどの植物で季節に合わせたリースを作り、内装をコーディネートします。

弘一さんは時間を見つけては玉原の散策に出掛け、SNSで様子を伝えていきます。お客様にも散策を薦め、季節の花や鳥を観察しながら楽しんでもらえるように、その人に合ったさまざまなコースを提案します。「玉原は日帰りでは回れないぐらい見どころがたくさん。1日目はラベンダーパークを楽しみ、次の日は湿原や鹿俣山を歩いて自然を満喫してもらえたら」と目を細めます。

多くは県外からの宿泊者ですが、新型コロナで遠出できず、比較的感受しにくい自然の中だからこそ、市民の皆さんにはこの夏、ぜひ訪れてほしいといえます。「近場でも宿泊すると、日頃の疲れがとれてリフレッシュできます。シジュウカラやキビタキのさえずりで目覚め、カーテンを開けると目の前に広がるブナ林。これまでなかなか足を運ぶ機会はなかったと思いますが、大自然と触れ合い、地元の良いさを改めて感じてほしいです」と話します。



1. 香り高いワインと濃厚なチーズを楽しめる 2. バーカウンターにはワインや洋酒がずらりと並ぶ 3. ブドウのつるのリース。コルクも再利用